

ワークショップ「統一科学の現代的可能性」

オーガナイザー： 菅原裕輝（日本学術振興会・京都大学文学研究科）
提題者： 戸田山和久（名古屋大学情報科学研究科）
丸山善宏（京都大学白眉センター・文学研究科
／オックスフォード大学計算機科学科）
菅原裕輝（日本学術振興会・京都大学文学研究科）
討論者： 伊勢田哲治（京都大学文学研究科）

科学は統一体をなしている。全ての言明は同じ言語によって表現することができ、全ての事態は同じ性質のものであり、同じ方法で認識することができる。「統一科学」と呼ばれたその理念は、論理実証主義者がかつて夢見たものだった。

本ワークショップの目的は、論理実証主義者が夢見た統一科学という理念を継承し、現代において可能な統一科学を再考することである。三人の提題者が目指す統一科学の間には目的・対象・方法において違いがあるが（表 1）、利用可能な科学的知見を最大限使い、哲学の新しいあり方を追い求める姿勢は共有されている。本ワークショップで打ち出される新たな統一科学は、現在の哲学のあり方自体をも変えるものである。

表 1 提題者が目指す統一科学

	目的	対象	方法
発生論的 統一科学 (戸田山和久)	われわれの世界における 位置を知るために	宇宙の創生から 科学の発生までの過程を	一つのシナリオの中に モデルを貼り込んでいく
圏論的 統一科学 (丸山善宏)	近代化以降の文理断裂と 諸学問の断片化細分化を 乗り越え、 失われた統合的世界像を 恢復するために	人間が 実在の意味を認識する 様々な次元としての 諸学問に内在する 多様な知識体系を	体系間の構造的連関を 組織化する方途としての 圏論的意味論の 多元主義的立場から 系統的に捉える
共生型 統一科学 (菅原裕輝)	科学の共生を導くために	科学者の認識論的規範を	顕在化させる ことにより記述・分析し、 全ての分野に通じる 共通基盤として据える